



同級生交歓

東京・新宿区 神宮球場にて (撮影 本社・石川啓次)

(右から) 大崎電気工業常務取締役管理本部長兼経理部長

根本和郎

グローバルシップ代表取締役社長

矢口敏和

JFEスチール代表取締役社長

柿木厚司

ヤクルト球団専務取締役

江幡秀則

私たちが茨城県立水戸第一高等学校を卒業したのが一九七二年。卒業直前に浅間山荘事件が起こるなど、下火になりつつあったとは言え、まだ学生運動の余韻が残る中で卒業だった。戦前からの校訓「至誠一貫・堅忍力行」の伝統が残る硬派の学校だった我が母校にもそうした運動が飛び火し、在学中に全校集会やストライキがあった。

思い出に残る学校行事は「歩く会」だ。全行程約七十キロをほぼ一昼夜掛けて歩くもので、当校OGの作家・恩田陸さんの著書「夜のピクニック」のモデルにもなった。又、夏の甲子園の地区予選に全校生徒で応援に行くのも大事な行事だった。残念なのは在学中に一度も勝ち試合を目に出来なかったこと。そのことで最も悔しい思い

をしたのは、野球部でそれぞれ一塁手、捕手として出場した柿木と江幡の筈だ。

その柿木は旧川崎製鉄に入社以来一貫して人事畑を進み、鉄鋼業界再編の引き金となった日本鋼管との統合直後の人事部長に。三年前からJFEスチールの社長として経営の舵を取る。一方の江幡はヤクルト本社に入社。現在は高校時代の経験を買われ、ヤクルト球団の専務取締役として球団経営に当たる。セ・リーグ理事としてビデオ映像によるリプレー検証制度の導入にも尽力。在京同窓会の同期の幹事役でもある。

根本はハンドボールで有名な大崎電気工業で常務取締役管理本部長とハンドボール部長を務める。東京商工会議所の五輪関連の組織で委員長を務める同社会長をサポートし、平昌冬季五輪にも視察に行った。私は旧三菱銀行勤務を経て、四十歳の時に義父の経営するビルメンテナンス会社に転職。M&Aや海外企業との合併事業等を通じて事業を拡大。全国で約五千四百棟の建物を管理。別会社で福島原発の廃炉事業も含め全国の原子力施設のメンテナンスも手掛ける。

(矢口)